

基本領域の計算について

塩崎 謙

January 7, 2021

Γ を n 次元空間群とする。 Γ の基本領域 (fundamental domain) のひとつを計算する手法として, Dirichlet-Voronoi領域を用いるものが知られている。 $a \in \mathbb{R}^n$ を選ぶ。 Dirichlet-Voronoi領域 $DV(a)$ は次で定義される。 ([1], Theorem 1.2.1.)

$$DV(a) := \{x \in \mathbb{R}^n \mid d(x, a) < d(x, \gamma(a)) \text{ for all } \gamma \in \Gamma \setminus \text{Stab}_\Gamma(a)\}. \quad (1)$$

次が成立する。

- $DV(a)$ は凸領域の内部。
- 小群が自明, つまり $\text{Stab}_\Gamma(a) = \{1\}$ ならば, $DV(a)$ は Γ の基本領域。

Dirichlet-Voronoi領域 $DV(a)$ を計算する際に問題となる点は, 軌道 $\Gamma(a)$ において, a の近傍の点のみである。 空間群 Γ における並進を $\tau = \{I, t\} \in \Gamma$ と書く。 スラブ

$$S_a(\tau) := \{x \in \mathbb{R}^n \mid (a-t, t) < (x, t) < (a+t, t)\} \quad (2)$$

を導入する。 不等式は, $|x-a| < |x-(a+2t)|$, かつ $|x-a| < |x-(a-2t)|$ と等価。 $\tau_i, i = 1, \dots, n$ を格子の基底とする。 次が成立する。 ([1], Lemma B.2.)

- Dirichlet-Voronoi領域 $DV(a)$ を計算する際には, a 近傍の点集合

$$\mathcal{O} = (\Gamma(a) \cap \bigcap_{i=1}^n S_a(\tau_i)) \cup \{\pm\tau_1(a), \pm\tau_2(a), \dots, \pm\tau_n(a)\} \quad (3)$$

のみ考慮すれば良い。

効率よくDirichlet-Voronoi領域 $DV(a)$ を計算するには以下のようにすればよい。 ¹

- まず, 格子の並進 $S = \{\pm\tau_1(a), \pm\tau_2(a), \dots, \pm\tau_n(a)\}$ のみについて, 領域 $DV(a)_0$ を計算する。
- 点集合 $\mathcal{O}' = (\Gamma(a) \cap \bigcap_{i=1}^n S_a(\tau_i))$ を a からの距離が近い順にソートする。
- \mathcal{O}' の点 p_1, p_2, \dots について以下を行う。
 - $DV(a)_j$ の境界点が全て a, p_{j+1} の”垂直2等分面”の内側に存在すれば, 領域はアップデートせず $DV(a)_{j+1} = DV(a)_j$ とする。
 - a, p_{j+1} の”垂直2等分面”の外側に $DV(a)_j$ の境界点が存在すれば, 点集合 S に p_{j+1} を加えて領域 $DV(a)_{j+1}$ を再計算する。

References

[1] Moritz W. Schmitt, *On Space Groups and Dirichlet-Voronoi Stereohedra*, Thesis, [url](#).

¹石崎渉さんに教えて頂きました。ありがとうございます。